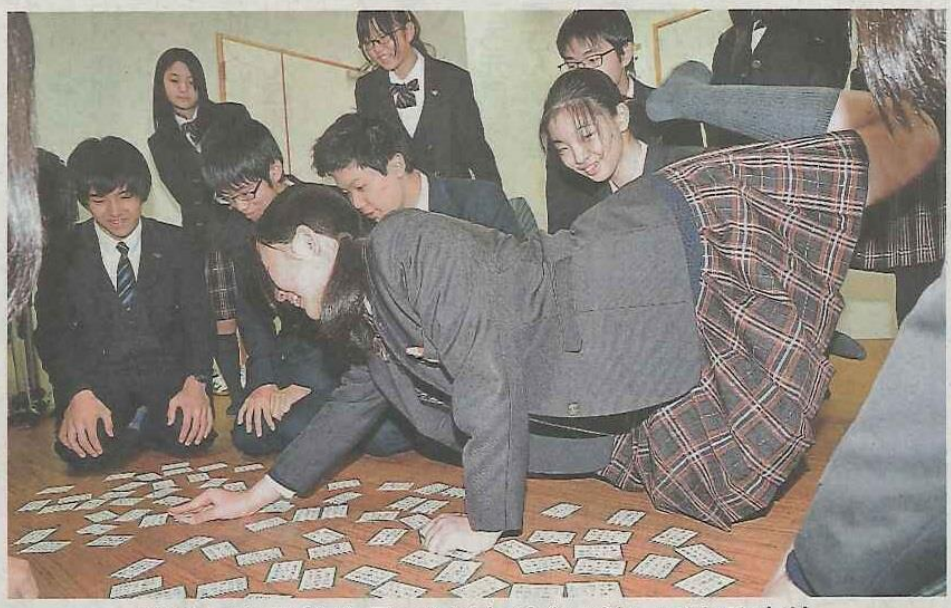
2016 年 1 月 12 日付 タウン情報「百人一首大会」

白熱の恒例百人一首

松本秀峰中　本格的学習前に古典に親しみ



遠くにある札を見つけダイビングして取る生徒

松本市の松本秀峰中等教育学校は7日、恒例の百人一首大会を開いた。日本の伝統文化に親しみ、古典に興味を持ってもらう狙い。1～3年生が挑戦した。（八代けい子）

各クラス10人ずつの4チームに分かれ、団体戦で行った。名簿別と男女別、5対5の対決で1首ごと入れ替え制で戦った。

生徒は車座になり、真剣な表情で取り札を囲んだ。「好きな歌、得意な歌を狙っている」と言う生徒が多く、それが取れると手をたたいたり、ガッツポーズをしたり。取れずに悔しがる生徒もいて、白熱した大会になった。

百人一首大会は、慣れない古典の表現に音で親しみ、文法や解釈など4年生からの本格的な学習につなげる狙い。冬休み前から「百人一首とは」といった事前学習をスタートし、冬休み中にそれぞれ暗記して当日に臨んだ。

名簿の団体戦で21枚を取った3年の川嶋愛未さん(15)は「百人一首は、小学1年生からずっとやっている。一字決まりや二字決まりなどを覚えると、速く取れて面白い。もう少し取りたかった」。

読み手を務めた3年の三谷明日菜さん(15)は「昨年も読み手をして面白かったので立候補した。日本語は他の言語と違い、響きが柔らかい」と話した。